



414
A 944



客歲

五月中御用有之歐洲派出被仰付爾來各地
 滯在中景况退、局長ヲ通シテ通信仕置假儀モ
 有之候處今般歸朝ニ付右経歴、概畧左、申上候
 明治十一年六月十九日横濱解纜、同七月八日米國桑港
 へ着此港於テ税関及、領庫事務、取扱等ヲ實
 視、同十八日當港出發、同廿六日紐育へ着、高木
 領事、會スルニ當時吉田公使ニ避暑、為メアスヘル
 パークニ在リト云フ因テ翌廿七日吉田氏在留地ニ至リ條
 約改正ニ關シタル御旨趣ヲ述ヘ且該公使當留政府ト
 結約シタル顛末ヲ問、將來歐洲於テ為サントスルノ目
 途ニ關シテ所見ヲ問答シ同廿日別ヲ告ケテ紐育ニ
 歸ル翌廿一日北平盛頓府ニ赴キ大藏首ニ到リ租税
 頭、矢ビ、ラーニ氏、関税頭、エツケ、シー、クヨニ氏、統計、長

正十一年四月
候爵邸

チヨセフ、ニニモ一氏等へ面會シ各當務ノ實際等ヲ見
問セシニ鄭重ナル待遇ヲ以テ懇切ニ示サレ且規則條
例等ノ諸書ヲ送ラル同八月四日華府ヲ發シテアスヘル
パークニ到リ同六日紐育ニ歸リ税關等ヲ巡見咨問シ
夫レヨリ船便ヲ得テ直チニ歐洲へ航セントスルニ當リ同
九日吉田公使紐育ニ來リ再々彼ノ改正ノ件ニ付鮫島松
方兩氏等へ傳述スヘキ事ヲ詳談ス翌十日當港ヲ解
纜同廿日英國リバーポールへつ着同日直ニ龍動へ到リシニ
當時上野公使ハ獨國フランクホルトへ出張中ニシテ面晤
シ得ス翌廿一日龍動ヲ發シ同廿二日佛國巴里へ到リシ
ニ松方大輔ハ獨國へ巡迴中鮫島公使ニ同國ハレーン
ワ井レルへ避暑中ニ際ス因テ松方氏へ電信ヲ通ヤシニ
同國バデーニハテンハ人會スルニ便ナルベキ上日ヲ松方大輔ヨリ

報來ル同廿六日發シテバデーニハテンニ到ル同廿八日松方大
輔來つ着茲ニ於テ書類等ヲ示シテ御人印示ノ趣ヲ詳細
ニ傳達シ又吉田公使ノ所論ヲ述ヘタリ鮫島公使ニハ
病ノ為メ來人會アラス同廿日同氏ヨリ青島來ルヲ得ハ幸
ナリトノ旨電報アリ因テ當地ヲ發シ鮫島公使滯留
地ナルバデーニワ井レルへ到リ御命示、旨ト吉田公使ノ所論
ト松方大輔ノ意見等ヲ詳細ニ傳述シ且該公使所見
ヲモ親問シタリ當時既ニ去ル五月中我政府ノ訓狀ニ公
翰ヲ添ハ各政府へ改正ノ主旨ヲ達シ今其返翰ヲ待ツ
ニ際ス因テ其返翰ノ主意ニ應シ復々為ス所アラントスル
ノ意思ヲ述ヘラレタリ同九月四日ハテンワ井レルヲ發シ佛國へ
歸ルヲ爰ニ於テ上野公使へ會シ御命示ノ趣吉田松方
鮫島諸氏ト面談ノ始末等ヲ詳述ス松方大輔も同月

未巡廻ヨリ巴里ニ歸ラルル則チ面會從來ノ始未ヲ述ヘ具
小官ハ英龍動於テ稅関事務等ノ一ヲ取調ヘキ旨ヲ告
テ認テ得テ同廿九日巴里ヲ敷致シ英龍動ヘ到ルル後十
月六日松方大輔來フ看小官動止ノ一ヲ伺フニ改正談判ノ
事或ハ當方於テ開ク一ニ至ランモ計リ難ケレハ先ツ止ル
ヘシ且ツ吉原大書記官モ來ルヘキ旨告ナレハ退テ尚ホ何レ
カ可相決トノ旨ヲ承ケタリ因テ先ツ始メ書ニ就テ學子ヒ
後チ實地ニ涉リ見聞ヤント思考シ先ツ專一調書ニ
フ看手又同十二月三日松方大輔吉原大書記官龍動ヘ
來フ看スウ友ニ於テ小官儀歸朝シ可然トノ旨松方大輔
ヨリ指示アリ又滯英中稅関及ヒ貸庫等ヘ巡見咨
問シ且規則條例等必要ノ書類ハ請求シ即チ彼
官吏ヨリ贈與セラレタリ改正件ニ付公使等會議ハ

竹即見聞ノ次第ハ吉原大書記官ヨリ陳告ヲ告ニ付
贅言セテ大同十二月十七日龍動ヲ敷致シ同十八日佛國巴里
ヘフ看同廿九日マルヤール港解纜明治十二年二月十六日
横濱ヘフ看港セリ

右各地経歴ノ次第具陳仕也

明治十二年二月廿六日 大藏權少書記官有島武



